



青森の  
決め手は、  
青森県産。

# 決め手くん通信!

こんにちは。ボクは、県産品PR用キャラクター「決め手くん」。県や関係団体などが取り組んでいる県産品販売促進活動の情報を、毎月インフォメーションで紹介します。



## ◆ 名古屋、福岡で青森りんごトップセールス!

三村知事がりんご関係団体の代表とミスりんごを伴って、12月10日(月)には名古屋市中央卸売市場、翌11日(火)には福岡市中央卸売市場を訪問し、セリ台から買参人等市場関係者に向かって、本年産の青森りんごの販売協力を要請しました。

また、会場を移して「青森りんご販売情報交換会」を開催し、青森りんごの消費拡大と販売促進について、大手青果卸会社の代表者と意見交換。各地区から出された消費宣伝対策のアイデアに対して、知事からは「農林水産物にとって市場の評価が大変重要。ブランドになるためには市場で評価されなければならない。」「青森りんごに対する熱い想いが伝わってきて、大変ありがたかった。皆様の応援に感謝するとともに、ともに利益を上げていくための仕組みを考えていきたい。」とのコメントがありました。

市場外流通の拡大にともなって市場の経営も厳しさを増している中であっても、青森りんごの産地を守るために共に頑張っていくという強い意志が確認されたトップセールスとなりました。



セリ台に立つ三村知事(名古屋市)



青果会社代表との意見交換(福岡市)

## ◆ 青森りんごミッション団 台湾を走る!

12月16日(日)~18日(火)までの3日間、青山副知事を団長とする県と関係団体によるミッション団が台湾で青森りんごをPRしました。今回は、台北国際マラソンに挑戦。持参した2千枚のPR用うちわは、あっという間に無くなり、「 Тайワン チャンヨウ チンセンピンゴウ (台湾頑張れ 青森りんご)」という言葉に、台湾の人々が本当に親日的であり、しかも青森りんごをよく知ってくれているということを実感しました。

また、太平洋そごうでも試食宣伝会を実施。青山副知事から、青森県と青森りんごのPR、そして台湾の消費者に日頃のご愛顧への感謝の気持ちを伝えた後、和服を着たミスりんごの工藤さんと水木さんからもPRとクイズの出題があり、イベントは大盛況。台湾のテレビ局「民視」も取材に来ていました。

さらに、今回初めて、台中の市場調査も実施。台湾の大手貿易業者である日豪貿易の黄社長がご子息、ご令嬢とともに対応してくれました。(社)青森県りんご輸出協会の太田専務理事によると、「世界一」や「陸奥」といった高級りんごのみの需要しかなかった台湾市場に、「サンふじ」など家庭食向けりんごの市場を開拓してくれた恩人が黄社長とのこと。黄社長の案内により、2カ所の青果市場を視察し、本県産りんごが大量に入荷していることを確認しました。

「県産りんごの輸出振興を図る上で台湾市場はまだ拡大の余地があるのか?」今回の訪台の目的の一つでもあった、この点の確認について、希望を抱かせる雰囲気は十分であったと感じ、ミッション団は帰青しました。



マラソンスタート地点でのPR



太平洋そごう前での試食宣伝



台中の青果市場での歓迎風景

**決め手は、青森県産。**

## ◆ 2007年「青森の物産と日本のうまいもの・伝統工芸展」を開催！

11月8日(木)～19日(月)までの12日間、(社)青森県物産協会の主催により、台湾高雄市の大立伊勢丹で、2007年「青森の物産と日本のうまいもの・伝統工芸展」が開催されました。

りんご関連商品では、ジュース、酢、はちみつ、ケーキ、菓子、スナックなどを、ほたて関連商品では、冷凍ポイルほたてや、ほたて入りラーメン、ほたて入りお好み焼きなどを販売。さらに、最近人気の高まっているせんべい汁やおからこんにやく、手焼せんべい、飴細工等の試食販売や温湯こけし、南部名久井焼といった伝統工芸品の実演販売も行われ、物産展を盛り上げていました。中でもやはり一番人気は青森りんご。まさに飛びような売れ行きでした。

また、会期中、八戸市長を団長とする「八戸港東南アジアコンテナ定期航路交流ミッション」の来場や、県観光局と旅行代理店等による台湾観光プロモーションが行われるなど、青森県の流通、観光もPRしました。

当物産展は来年度も開催され、りんごをはじめとした青森県産品を幅広くPRしていくこととしています。



大立伊勢丹の大きな看板



大盛況となった会場



温湯こけしの実演

## ◆ 津軽塗伝統工芸士たちのチャレンジ～「玄関のちよい掛け展」開催！

12月6日(木)～11日(火)の6日間、津軽塗の小椅子「玄関のちよい掛け」の展示会が東京リビングデザインセンターOZONE(東京都新宿区)で開催されました。これは、今年度の県事業で「売れる可能性のある商品」に選定された工芸品の販路拡大のため、津軽塗伝統工芸士会が県補助金を活用して実施したものです。

「玄関のちよい掛け」は、インダストリアルデザイナーの曾根真佐子氏が原型デザインし、国際漆展で特別賞を受賞したものに、津軽塗伝統工芸士会の職人22人が津軽塗最高の技術で塗りをほどこした小椅子です。

展示会ではそれぞれ塗り模様の異なる椅子、52個が発表されました。津軽塗を知らない首都圏の消費者に商品の魅力を伝えるため、津軽塗の特徴や製法の紹介パネル、漆採取の道具、職人の顔写真を配した展示会場は終日多くの来場者でにぎわいました。また、会期中に開催されたレセプションパーティーでは協賛者から提供された県産食材が個性豊かな料理となり、約100名の来場者の注目を集め、会場を一層盛り上げていました。



津軽塗の「玄関のちよい掛け」

雑誌や新聞に掲載されたこともあって受注数も伸び、展示会終了後も問合せがあるなど反響は大きく、さらにデザイナーとの協同関係がうまく構築できたことで、来年以降も広報や販促活動、新たな商品開発などに取組みたいと意欲が高まったようです。

**決め手は、青森県産。**

## ◆ 「りんごの国 by AOMORI 2007」を開催！

(社)青森県物産協会は、11月27日(火)～12月10日(月)の14日間、JR大宮駅構内の商業スペース「エキュート大宮」において、「りんごの国 by AOMORI 2007」を開催し、県内製菓会社のアップルパイを中心に、りんご、りんごジュース・ジャムなどりんごに関連する商品を販売しました。

新鮮なりんごで作られたアップルパイはとてもおいしいと大好評！ふじ、王林、金星を詰め合わせた「三色りんご」や五所川原市の「赤～いりんご」なども消費者の関心を誘い、期間中の売上は600万円を超える大盛況となりました。

県と関係団体は、今後も、情報発信力の高い施設や販売店等と連携して、県産品の効果的な情報発信を行っていく予定です。



アップルパイコーナー



三色りんご(ふじ・王林・金星)

## ◆ 青森シャモロック販売プロモーションを実施！

本県が誇る特産地鶏「青森シャモロック」の販売促進のために、県と生産者が一緒になって、12月に、県内のホテルやスーパーへの販売プロモーションを実施しました。

ホテルへは、青森県シャモロック生産者協会の生産者3名とともに、支配人やホテルシェフ等を訪問し、青森シャモロックのPRと利用拡大の働きかけを行いました。実際に青森シャモロックを使っているシェフからは、味に対する高い評価をいただき一方で、価格や継続的な供給体制について注文がありました。生産者にとっても、実際に使っている方の意見を聞くことができ、大変刺激になった様子でした。

また、ジャスコやイトーヨーカドーなどの県内スーパーでは、青森シャモロックの店頭販売を行い、直接お客様へPRしました。

県では、今回の販促活動で得られた評価・反省点を生産者にフィードバックしながら、今後の青森シャモロックの販売促進活動につなげていくこととしています。



県内スーパーで  
青森シャモロックを販売・PR

## ◆ 東青産そば使用の「猿賀そば」の販売！

高砂食品株式会社(本社:平川市)では、この度、東青産のそばを使用した年越し用生そばの新商品「猿賀そば」を12月27日(木)から年末にかけて、県内のカブセンター・ベニーマート全店で販売することとなりました。

商品化に当たっては、県が仲介し、高砂食品(株)が生産現場であるJA東つがるの現地視察や製粉を担当する有限会社丸井精米所(十和田市)の製粉ライン等の確認、さらに、紅屋商事株式会社のバイヤーとの商品開発等を行いながら、新商品「猿賀そば」を完成させました。

大晦日の年越しそばは古くから長生きの縁起物として食されています。猿賀神社でお祓いを受けた東青産そば粉を使用した「猿賀そば」。是非、ご賞味ください。



新商品「猿賀そば」



決め手くんと猿賀神社でお祓い  
決め手は、青森県産。